

妊産婦のメンタルヘルスを支える 保健指導 (スライド抜粋)

国立成育医療研究センター
こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科
立花良之

妊娠期からの切れ目のない支援には早く「気づく」ことが必要

- 産後うつ病のハイリスク者に妊娠期から気づく：リスク因子を念頭に置いた対応が重要

産後うつ病の妊娠中のリスク因子

- 妊娠中のEPDS
- 初産婦
- 家族のまとまりを感じられない
- 現在の精神科通院歴

Tachibana Y, Koizumi T, Takehara K, Kakee N, Tsujii H, Mori R, Inoue E, Ota E, Yoshida K, Kasai K, Okuyama M, Kubo T

Antenatal risk factors of postpartum depression at 20 weeks gestation in a Japanese sample: psychosocial perspectives from a cohort study in Tokyo.

PLOS ONE; doi: 10.1371/journal.pone.0142410, 2015.

母子保健の多職種連携のモデル構築

- 世田谷区

地域の産科医・助産師・小児科医・精神科医・世田谷区役所健康づくり課・子ども家庭課などと連携し、区役所会議室を借りて、毎月1回症例検討会を実施。

- 須坂市

須坂市役所健康づくり課と県立須坂病院、長野県精神保健福祉センターの協働で、毎月1回県立須坂病院会議室で地域母子保健関係者が、特定妊婦や要支援・要保護児童とその家族のサポートについて協議している。

産科—地域母子保健—小児科の切れ目のない支援を精神科医療がバックアップするモデル構築を行った。

須坂市で平成25年度からはじまった妊娠・出産包括支援モデル事業の取り組み

1 母子保健コーディネーターの配置

★須坂市健康づくり課 母子支援系の保健師を位置づける

①母子手帳交付時に「妊婦さんおたずね表」とEPDSに記入してもらい全数面接を実施。

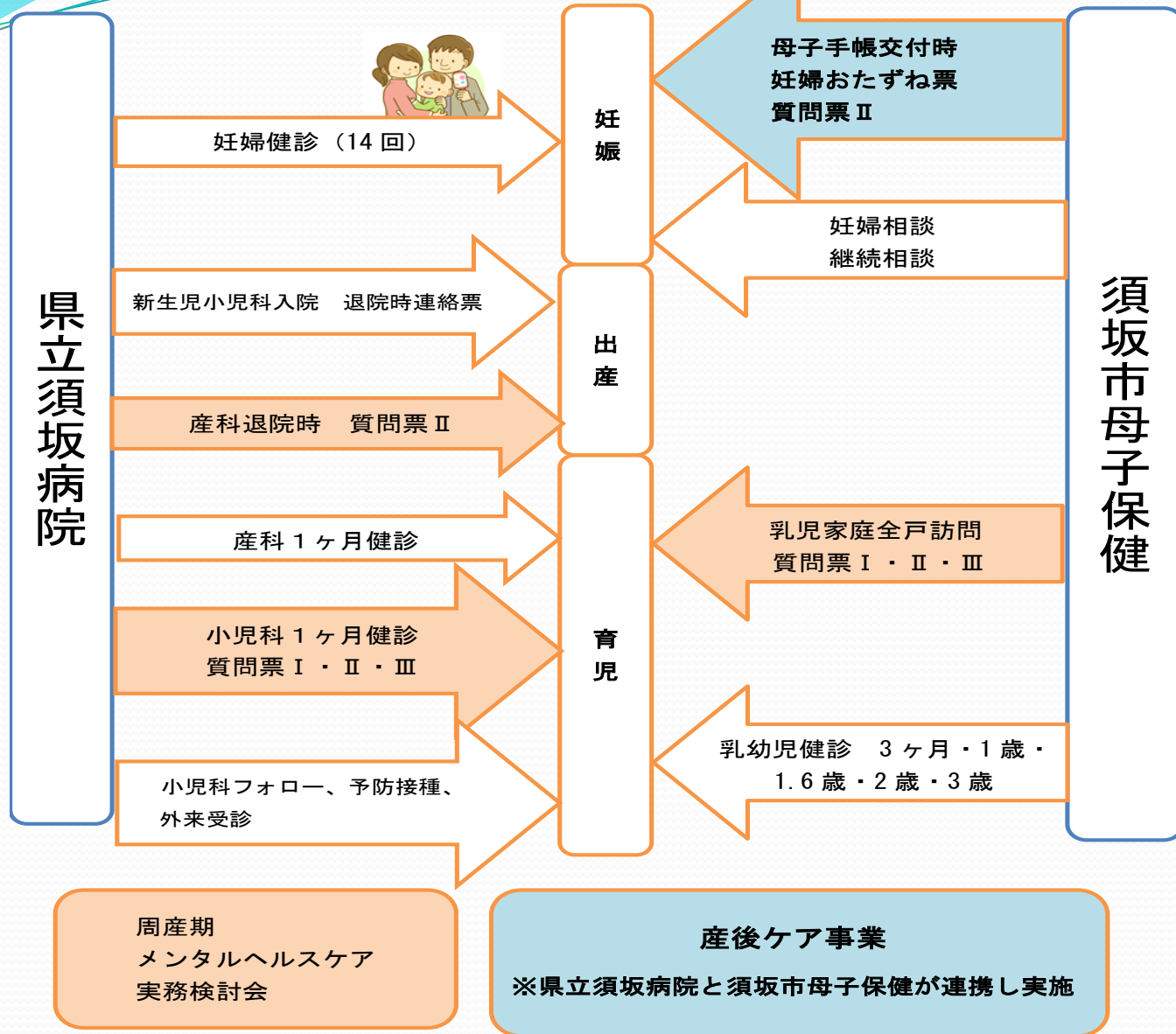
②周産期メンタルヘルス実務
検討会の運営

妊婦さんの面接をする母子保健コーディネーター



(須坂市保健所 樽井寛美所長よりスライドをご提供いただきました)

須坂市の妊娠・出産支援モデル事業の取り組み:平成26年度より



(須坂市保健所
樽井寛美所長より
スライドをご提供
いただきました)

多職種で検討する支援計画

「周産期メンタルヘルスケア実務検討会」の定期開催

◆ 内容

要支援者について、各機関の関わり報告や、今後の支援方針の検討と確認

(要支援者の状況:EPDS高得点・メンタルヘルス不調・育児不安・
家族関係・経済的問題等)

◆ 頻度:概ね 月1回 県立須坂病院で開催

◆ 検討会メンバー

県立須坂病院 小児科・産科医師 助産師・看護師(病棟・外来)

MSW

保健師(須坂市・小布施町・高山村)

精神科医2名

(須坂市保健所 樽井寛美所長よりスライドをご提供
いただきました)

周産期メンタルヘルスケア実務検討会 定期開催の成果



- ・ハイリスクの母親に対し、妊娠期から地域の多職種が連携して、産後も母子をサポートする切れ目のない支援の仕組みが整備された。
- ・要支援者の情報を一元化でき、支援の方向付けと役割分担を多職種で出来る。
- ・事例検討を重ねることで、支援実施者の事例理解の力が高くなっている。

(須坂市保健所 樽井寛美所長よりスライドをご提供いただきました)

「母と子のサポートネットせたがや」

母と子のこころの健康をサポートする医療・保健・福祉のネットワーク

母と子のサポートネットせたがや

関係機関マップ

『気になるお母さん』の見立てと対応のポイント

妊娠中・授乳中の向精神薬内服について

お知らせ

関係機関

リンク

お問い合わせ



母と子のサポートネットせたがやについて

妊娠中・産後などに、お母様方は産後うつ病をはじめとして、メンタルヘルスの不調をきたしやすいことがわかっています。産科や小児科を受診したお母様で心の不調のある方を、精神科や保健師などに紹介して、母子保健機関が連携してお母様とお子様をサポートすることは、現状ではなかなかうまくいっていません。

このような母子保健機関の連携をスムーズにして、メンタルヘルスの不調のお母様に早く対応し、お母様とお子様をサポートするための、世田谷区の母子保健機関の取り組みが「母と子のサポートネットせたがや」です。

Information

RSS

2014年1月8日 お知らせ

母と子のサポートネットせたがやのサイトがオープンしました

会員ログイン

会員ログイン

登録がお済みでない方は下記リンク先よりご依頼ください

会員登録はこちら

[登録はこちらから](#)

PAGETOP

母と子のサポートネットせたがや

母と子のサポートネットせたがや

- 平成24年よりメンタルヘルス不調の母親のサポートのための連携モデルの構築を行ってきた。
- 平成25年に多職種連携のためのマニュアル作成
- 情報サイト「母と子のサポートネットせたがや」ホームページの開設
- 母子保健関係者が集い、連携の仕方について協議したり、症例について話し合ったりできる場の調整: 現在、月に一度世田谷区役所で開催している。

関係者からよく聞かれる 多職種連携についての課題

- 精神疾患のことが良くわからない。どのような時が介入すべき時なのかがわからない。
- 「気になる妊婦」「気になる母親」がいた時に、どこにつなげばよいのかわからない。
- 「気になる妊婦」「気になる母親」にどのように対応すればよいのかわからない。
- 連携の際に他の職種がどのようなことをやっているのかわからない。
- 連携の中で自分の職種が果たす役割がわからない。

母子保健関係者向けの母親のメンタルケアの 研修パッケージの作成：マニュアル作成

母と子のサポートネットせたがや

こころの問題で気になる母親に対する対応の手引き



産後うつ病
早期発見・対応
マニュアル

— 保健・医療従事者のために —

長野県精神保健福祉協議会

母親の
メンタルヘルス

サポートハンドブック

気づいて・つないで・支える

多職種地域連携

妊婦期
からの

立花良之 著

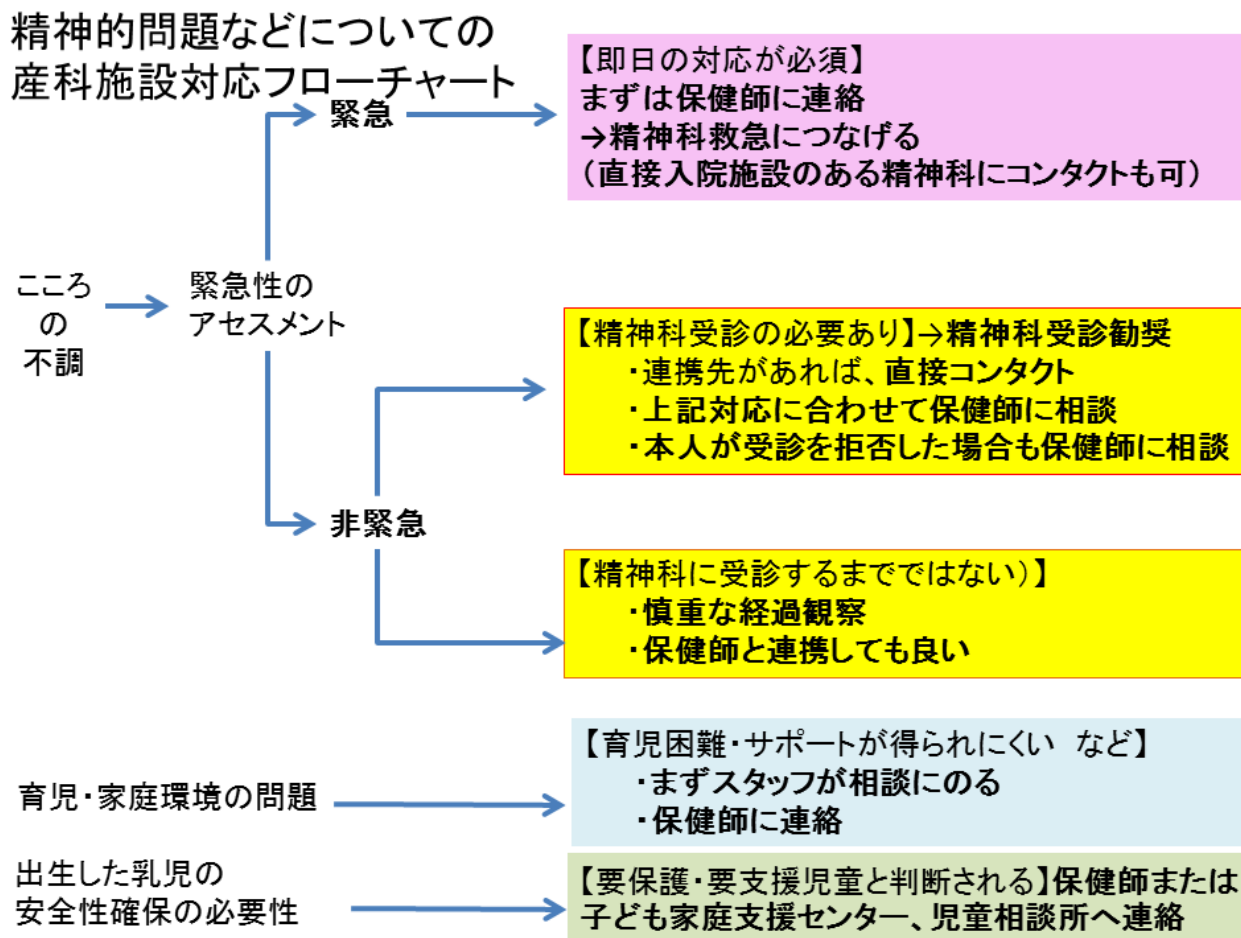
医歯薬出版株式会社

世田谷区では「母と子のサポートネットせたがや こころの問題で気になる母親に対する対応の手引き」を作成。世田谷区の母子保健関係者に配布。（平成25年）

長野県では、「産後うつ病対応マニュアル」を刊行し、長野県下の全産科医療機関・保健所に配布。（平成26年）

平成28年に医歯薬出版より「こころの問題を持つ母親のサポートハンドブック 気づいて・つないで・支える多職種地域連携」を刊行。（平成28年）

産科医療機関用対応フローチャート

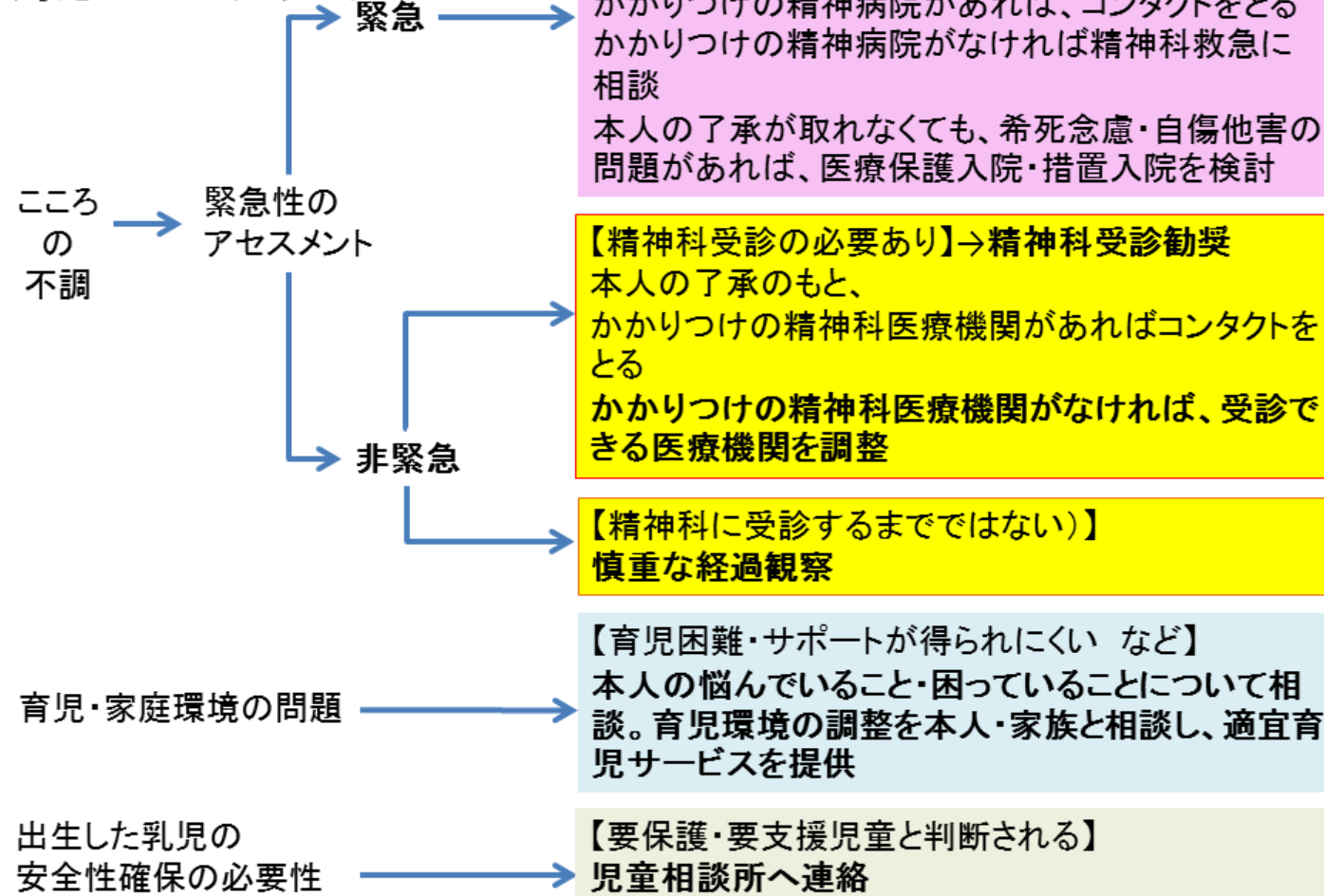


・立花良之、妊娠・出産・育児にかかわる各時期の保健福祉システムの現状とあり方、
精神医学, 127-133, vol.58, No.2, 2016

・日本周産期メンタルヘルス学会編 周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド CQ5

保健師用対応フローチャート

精神的問題などについての
対応フローチャート



- ・立花良之、小泉典章「母子保健活動と周産期・乳幼児期の精神保健」精神科治療学、97-103、vol.31.No.2、2016
- ・日本周産期メンタルヘルス学会編 周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド CQ5

世田谷区・須坂市・長野市での、 周産期メンタルケアのネットワーク 作りで見えてきたこと

- 医療・保健・福祉の連携構築のため、地域での定期的な「顔の見える連携」の場づくりの重要性
- メンタルヘルス不調の母親に対する地域での一貫した対応の仕方についての整備、マニュアルやガイドラインの作成
- 均てん化のための研修会の整備

立花良之、他. メンタルヘルス不調の母親とその子どもの支援のための、妊娠期からはじまる医療・保健・福祉の地域連携モデルづくりについて. 子どもの虐待とネグレクト: 日本子ども虐待防止学会学術雑誌 18(3), 362-366, 2016-12

母子保健メンタルケア指導者研修 厚生労働省子どもの心診療拠点病院 事業で実施

- 68名の保健師・産科医・助産師・看護師・精神科医・保育士などが参加。



会場 国立成育医療研究センター病院 講堂

妊産婦のメンタルヘルスを支える 保健指導の研修会の効果検証

- 参加者が心理社会的リスクのある妊産婦に対し、医療・保健・福祉で連携して対応するためのスキル向上に、研修プログラムが有効であったことが明らかになった。
- 研修を受けることで、周産期関係者のメンタルヘルスケアに対する意識の向上や多職種連携のスキルが向上することが示された。
- 多職種連携では、どのような状況のときに、どのタイミングで、どの職種と連携する必要があるか、また、他の職種・機関がどのような役割を果たしているかを理解する必要がある。
- 妊産婦メンタルヘルスを支える母子保健関係者の共通認識の形成として、研修会は有効であると考えられた。
- 今後も均てん化のために、厚生労働省の子どもの心の診療拠点病院事業で引き続き研修会を開催していく予定である。